

# DRAMA かながわ 64

神奈川県演劇連盟事務局・横浜市中区福富町西通り52(横浜演劇研究所内) Tel.045-261-4866

## この芝居は教えてくれた

日時:2011年12月16日(金)~18日(日) 会場:神奈川県立青少年センター ホール  
神奈川県演劇連盟合同公演「皇國ノ訓導タチ」—大君ノ邊ニコソ死ナメ—



### 合同公演を終えて 京浜協同劇団 藤井康雄

4ステージ、1404名の観客。アンケートに寄せられた圧倒的支持と感動。2011年度合同公演は初期の目標を果たし、まずまずの成功で終えたことを歡びたい。

演劇連盟による合同公演の始まりは連盟結成40周年を記念しての「西遊記」であるが、それ以降の合同公演への取組の形態や上演の狙いなど、夫々に特徴をもったものになってきたと思う。以下、今回における特徴と特筆すべき内容についての報告となろう。

実は「よこはま壺座」が「蒼生樹」の時代、10年程前に京浜から合同を呼びかけた経過があった。その背景には主に2つの事柄がある。25年を経て老朽化が進んだ木造の稽古場を建て直し、鉄筋コンクリート造りの稽古場が1996年に完成した。客席100名を超えたアトリエ公演も可能である新稽古場は「スペース京浜」と命名され、以降ここでの公演が主な上演会場となっていくのである。一方では新人劇団員の加入が少なく、劇団総体の高齢化が進行していく。そうするとどうなるかという「やりたい芝居」が空間や登場人物の制約で出来なくなり、現状で「やれる芝居」に収まらざるを得ないという事になっていくのである。何とかこれを打破したい、そのための方向を探る試みとして考えていた、というのが一つ。

もう一つは21世紀を迎えるというのに、それまでは微かにでもあった「自由や権利や豊かさ」が次々と奪われ閉

塞感がただよっている状況を打ち破りたい、そういう力があるとしてその演劇であるし、現状を変革するものとして演劇の社会性を意識している集団だからこそ、その合同公演は意味を持つものとなるであろうとの思いであった。

準備は1年以上前から始められた。両劇団の総力を挙げたものにしようと、交流を兼ねた飲み会などもはさみながら、作品について、制作や演出についてその回数は5回をこえた。多くの時間をかけたのはもちろん作品についてである。そこでは井上ひさし作品「雨」「藪原検校」や「牛乳屋デビュ」「臨界幻想」そして「皇國ノ訓導タチ」などであったが、3・11の未曾有の大震災のあと、両者の完全な意見一致を得て決定されたのが今回の上演作品である。その事情などについては公演パンフの濱田演出「被災と戦時下」に詳しいのでそこに譲りたいと思うが、京浜の都合で言えば合同公演にかけた初期の思いが全て満たされたものとなったのである。これはなんとしても成功させるしかない。奮闘が始まったのである。

制作の面では多くの「教師の皆さんに」という重要課題を設定したのですが、作品世界の暗さ、重さがそうさせたのか、「いまさらそこを振り返らなくても」といった反応が意外と多く苦戦を強いられました。しかし一方では「過去の間違いに眼を閉ざしてはいけない」し「今の時機にかなった作品」であると期待されたのでした。「右翼」からの嫌がらせや上演妨害にもあいましたが、センター側の毅然とした態度が功を奏したのか、最悪の事態を避けることが出来ました。



創造の現場も大変でした。なにしろ「漢字ばかりで台詞が読めない？」という読み稽古からスタートした訳ですから。時代背景が判らない、風俗習慣作法がわからないことに加えて稽古開始時間は早くて午後の7時半、10時過ぎまで。終わるとすぐに帰らなければならない人多々。今日の労働事情を反映してか、役者が全員揃ったのはなんと本番のみ。打ち合わせ、意思統一の場がなかなか持てないな

ど諸困難山積。それらをやり繰りしながら、緊張感のある一定の完成度に到達した舞台を創ることが出来たのは、ゆるぎのない合同公演にける両劇団の意志があったからであるし、またその中心に濱田氏が座り実に丁寧で粘り強い稽古を積み上げていったからである。

打ち上げは深夜遅くまで続いた。「また、やりたいね」などの言葉をかかわしながら。

## 合同公演を終えて よこはま壺座 福原毅

京浜協同劇団の藤井代表のお話にある通り、県演連合同公演「皇國ノ訓導タチ」は、舞台の完成度、および1404名という集客の点において、よい成果を上げることが出来ました。この成果は、県演連合同公演という枠組みがなければ達成できませんでした。劇場の確保、当日の受付や集客、関係各所との調整など、様々な場面において県演連の皆様にお世話になりました。この場を借りて、御礼を申し上げます。

さて、合同公演の最大の意義は、単独の劇団ではできない質の高い舞台を実現できることです。質の高い舞台を創作したという経験は、その公演に参加した団体、および個人の貴重な財産となって、その後の芝居創りに活かすことができます。ここでは、今回の公演での私自身の経験を2つほど挙げながら、合同公演そのものについて考えてみたいと思います。

最初に挙げたい合同公演での私の経験は、演出、役者および裏方とのコミュニケーションの質と量が、芝居の完成度に大きな影響を与えることを再認識できたことです。これは当たり前のことなのですが、単独の劇団で芝居創りを続けていると、忘れてしまうポイントでもあります。同じ顔ぶれでは、きっと演出はこう考えているだろう、役者もこれくらい言えばこの程度はやるだろうという思い込みから、劇団内でのコミュニケーションを疎かにしてしまいがちです。今回は、演出意図の理解と、時代背景に対する意識を合わせるためのコミュニケーションを大切に、芝居創りが進められました。本番の2か月以上前には、演出から9ページにもおよぶ演出メモが出され、演出助手の先導の

下、役者による時代背景の調査と報告、その時代の所作の勉強会などを通じた意思の疎通が図られました。こうした意識の統一を丁寧に行うことが、質の高い舞台につながることを改めて認識しました。これは、違う劇団が共同で創作するという緊張感がなければ実感できなかった貴重な経験だと考えています。

一方、合同公演ならではの負担も体感しました。それは“芝居創りのプラットフォーム(※脚注1)”の違いに起因する、小さな「エッ!?’」の積み重ねです。本格的な共同創作を始める前は、京浜協同劇団とよこはま壺座は、取り上げる作品の違いはあるものの、県演連の中では比較的近い“プラットフォーム”を持っていると考えていました。

更に今回は、本格的な創作に入る6ヶ月ほど前から、両劇団の“プラットフォーム”の差異について論点を整理した上で、繰り返し、時間をかけて、差異を吸収するための調整を行いました。それでもやはり、実際の創作に入ると、様々な場面で小さな「エッ!?’」がありました。これは合同公演では避けて通れない負担です。

しかし、今、振り返れば、50年以上の歴史を持つ京浜協同劇団との共同創作で体感した、この小さな「エッ!?’」の一つ一つが、創立2年に満たないよこはま壺座にとって、貴重な“ベンチマーク(※脚注2)”となっていたのだと感じています。小さな「エッ!?’」は比較対象との違いを認識して初めて体感できることです。ここから、よこはま壺座の良い点と今後の課題を認識することができました。合同公演での小さな「エッ!?’」は、今後よこはま壺座が成長していく上での貴重な財産となったと思います。

以上、私自身の今回の公演での実感を記述してきました。合同公演は、大きな負担を伴う事業です。しかしその負担は将来に生きる経験となります。負担を将来に生きる経験に換えていけるかどうかは、共同創作による緊張感と、他劇団との違いを楽しむ余裕を持てるかどうかにかかっていると、個人的には考えています。



(※脚注1) “プラットフォーム”とは、「土台」あるいは「基盤」という概念を表す言葉。ここでは、予算の立案、チケットの扱いや集客方法、裏方の役割分担など、芝居を創作する上での、諸々の共通認識と捉えて差支えない。

(※脚注2) “ベンチマーク”とは、他社の優れたところを学び、それを基準に自らの業務や経営を改善する手法のこと。元の意味は、測量における水準点(基準点)のこと。



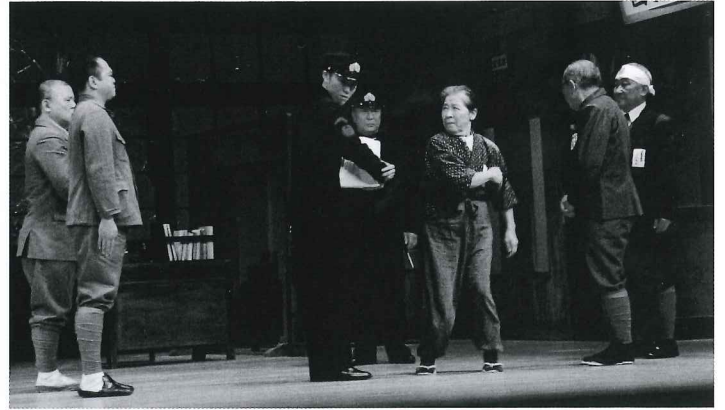
久しぶりに良いお芝居を観させて頂きました。

殆どの役者さんが現実の戦中を経験していないなか、これだけ素晴らしい表現をされたことは、作者の力を感じ、演出者、スタッフ、キャスト、そして多くの支援の方々の力があつたことと思います。全ての関係者の皆さんに敬意を表します。

個別には、装置、大道具（製作も含めて）、衣装、音響、照明など、長い上演の歴史とスタッフの並々ならぬ努力を感じて、感激しました。特に衣装や小道具は現在では身の回りに見掛けないものも多く、頭が下がる思いです。

演技では、皆さん、努力を重ねて時代背景も勉強され、力強い発声、発音も良かったと思いますが、時に方言のアクセント・イントネーションに苦勞するあまり、セリフが一本調子になったり、講談調のイントネーションになったり一部、聞き苦しいことがありました。しかし、長い上演の積み重ねと稽古に励まれた様子が良く感じられました。

総じて男優さんに比べて、女優さんの演技が良かったと思います。もちろん、どちらも観客に感激を与えて下さったことは間違いありません。



太平洋戦争の終結から六十六年余り、苦しい時代を知り、経験した方々が年々少なくなり、歴史の継承がますます困難になるなか、このようなお芝居を通じて、語り継ぐことの大切さを願わずにはおられません。映画・テレビ以上の舞台の力を感じます。

スタッフ、キャストの努力と力量、それに観客の熱い想いが交叉して素晴らしい公演が出来たことに、あらためて感謝したいと思います。

## 神奈川県立青少年センター50周年

神奈川県立青少年センター舞台企画課長 池上 裕

県立青少年センターでは、毎年、歌舞伎などの伝統芸能から現代劇まで、プロ・アマ問わず、数多くの芝居が上演され、また、演劇に関する講習会なども開催され、多くの青少年や県民の皆さんで賑わっています。

さて、神奈川県演劇連盟は2010年に設立50周年を迎えられましたが、青少年センターも今年開館50周年となります。開館当初の資料を見ますと、数々の公演等に加え、第1回全国アマチュア演劇研究大会が開催され、県の高校演劇発表会や中学校演劇発表会などが始まったことがわかります。アマチュア演劇や学校演劇を支援するセンターのあり方は当初から変わっていないという想いに捉われます。

現在でも、神奈川県演劇連盟との共催で実施する「青少年のための芝居塾」の稽古から本番、また、演劇フェスティバルや合同公演などに参加する様々な劇団の芝居などを見ますと、それぞれの劇団の個性や劇の面白さもありますが、大勢の観客が集まり、出演者の熱意と観客を巻き込む空間など、生ならではの魅力や迫力が伝わってきます。

また、中学生・高校生のための演劇講習会や演劇発表会では、参加している生徒たちの人数の多さもありますが、その真剣に取り組む姿勢などを見ますと、演劇の裾野の広がりを感じます。これらは、芝居を見た人や参加した生徒たちの感想などを聞くとより明らかです。

しかし、一方では、アマチュア演劇に対する一般の方々の関心はまだ低いと言わざるを得ないのかもしれませんが。こうした中、青少年センターでは、開館50周年を機会に、青少年やアマチュアの演劇を支えるホールとして、演劇の魅力をさらに多くの人々に強く発信していくために、県演劇連盟をはじめとした皆さんとともに新たな事業に取り組むことを考えています。

そのひとつは、「青少年のための芝居塾」を拡大した記念公演です。4月の出演者オーディションからはじまり、本番はメインのホールを使うなど、これまでの芝居塾を超えた舞台が展開されます。また、劇団扉座の横内謙介さんなど県内の中学・高校演劇等の出身者や関係者をお招きして、青少年の演劇などについて語るシンポジウムを開催し、併せて、中学校と高校の代表校による演劇を上演します。ほかに演劇鑑賞会なども企画していますので、多くの皆さんに来館していただきたいと思います。



# 「第9回神奈川演劇博覧会」

演劇博覧会実行委員長  
G/9-Project 佐藤典久

入場無料・出入り自由を旗印に毎春開催されてきた神奈川演劇博覧会が今年もまた開催されます。この博覧会も今年で9回を数え、新しく参加してくれる4劇団を含め、10の劇団が参加を表明してくれました。昨年行われたミーティングで初めて顔を合わせたこの10の劇団はとても和やかな雰囲気、抽選など行うことなく話し合いだけで日程や出演順などを決めることが出来ました。毎年カラーの違う演博ですが、今年も大変良い企画になると期待できそうです。

昨年3月。第8回演劇博覧会の総合仕込みを翌週に控えたあの日、日本は大震災に見舞われました。テレビやラジオ、インターネットから流れてくる情報は刻々と変わり、演博実行委員会も開催か中止かの判断を迫られます。そこでまずは参加劇団に確認のメールを送ったところ、早速身内に被災者が出たため不参加を表明する劇団が出ましたが、大多数の劇団が博覧会開催を支持してくれました。同時にお伺いを立てた青少年センターからも建物的には問題ないので、開催か中止かの判断は実行委員会に任せるとの連絡をいただきます。が、引き続き起きる大きな余震に、とりあえず総合仕込みは取りやめることにし、当初予定していた形での開催は中止しました。ただ文化がこの被災してしまった日本で何か出来ることはないだろうかという思いから、会場を開放し有志だけで行う作品発表会を提案しました。これは吊りものの仕込みなし、照明は作業灯もしくは窓から入ってくる外光、舞台も客席も平土間という条件で、集まってくれるお客様と劇団だけで作品を上演するというものです。この提案に理事の方からこんな時だからこそ芝居が負けてはいけないんだという強い支持の言葉をいただきました。とにかく電波やインターネットという媒体から一方的に伝わってくる情報をただ受け止めるのではなく、人と人が面と向き合える場を設けたかったのです。芝居に出来ることを探したかったのです。でもこの提案をしている間にも刻々と被害の拡大状況が伝わってきます。震災に加え原子炉の暴走。参加劇団の中からこんな時に芝居の上演なんて不謹慎だという声があがります。そして博覧会開催を支持していた劇団からは次々と辞退の報が入ります。結局最終的には発表会も取りやめることにし、第8回の演劇博覧会は完全に消滅しました。

今年開催される第9回の博覧会には第8回で発表できなかった劇団の発表できなかった作品がいくつか選ばれています。また新しい作品、新しい劇団もいますし、以前参加

してくれた劇団が再登場してくれることにもなりました。きっとテレビや雑誌などでは演劇博覧会開催期間の前後で震災から一年と称して特番がたくさん組まれる事でしょう。あれから一年たった今だからこそ、一方的に入ってくる情報ではなく、多種多様な大勢の劇団が集まり、今日の前にいる人が発している言葉を、表現を感じに是非会場まで足をお運び下さい。

## 第9回神奈川演劇博覧会

日程：2012年3月17日(土)～20日(火・祝)

会場：神奈川県立青少年センター・多目的プラザ

入場無料

## ■ スケジュール

<b>17日(土)</b>	
15:30～	あげ玉プロデュース(劇団エルブ) 「千羽鶴幻想」
17:00～	湘南テアトロ☆デラルテ 「ソープオペラ 特別編」
18:30～	ライト・トラップ 「台本のない芝居 ～Live in a Dive～」
<b>18日(日)</b>	
15:30～	劇団四ツ葉屋 「家 ーウチー」
17:00～	ヘンテコカサナル 「アシュラカメレオン」
18:30～	Team58 「額縁の女 ゲームマスターは誰だ」
<b>19日(月)</b>	
18:30～	劇団北口改札 「143.5(151.8より)」
20:00～	G/9-Project 「夕空はれて ～よくかきくうきやく～」
<b>20日(火・祝)</b>	
15:30～	Yokohama Shakespeare Group 「A Midsummer Night's Dream(夏の夜の夢)」
17:30～	演劇プロデュース『螺旋階段』 「RIVER」



# 劇団探訪

神奈川には県演連加盟劇団以外にも数多くの劇団があります。芝居を観劇しながら、いろいろな劇団取材してご紹介します。今回は「湘南テアトロ☆デラルテ」です。

今回は、次回の演博で3回目の出演となる「湘南テアトロ☆デラルテ」の稽古場にお邪魔しました。代表の郷田ほづみ氏は、あの「怪物ランド」の！あの「装甲騎兵ボトムズ」の！というスゴいお方なのですが、そんな方が我等が神奈川のご真ん中で演劇活動をしているなんて、心強いではありませんか！

取材：関口素実、福原毅（劇団よこはま壱座）

## 2000年劇団創立

湘南テアトロ☆デラルテは、俳優・声優活動を行ってきた郷田氏の「自分の経験を伝え、若手俳優を育てたい。そして演劇の面白さを多くの人たちに知ってもらいたい。」（タウンニュースより）という思いを胸に「湘南アクトステージ」として2000年に創立。年1～2回のペースで公演活動を行っており、2005年に稽古場を構えてからは、平塚を中心に活動。でも、どうして平塚？郷田氏によると「二宮の出身で、平塚には若い頃から縁があった」とのこと。劇団はその後名称を「湘南アクターズ」とし、そして2011年、現在の「湘南テアトロ☆デラルテ」として現在に至る。劇団員には、俳優・声優として外部で活動されている方も多い。

## リラックスした雰囲気稽古場

稽古はその平塚の稽古場「アトリエ湘南」で行われていました。アトリエは度を越えて綺麗で清潔感を醸し出しており（床が光っていました！）、そうでない稽古場しか見えてない私は、何故の嵐。つい1週間前に公演が終了し、1月公演に向けての稽古でした。役者は全員揃い、演出の郷田氏を待つ。郷田氏が現れると私の緊張は高まりましたが、稽古は驚く程リラックスした雰囲気スタート！しかし進行してゆくにつれ役者全員が稽古に集中。10月に上演した公演の再演で、再演に向けては初めての稽古。一部役者を変えての上演ということもあってか、台本を離しての立ち稽古。本公演はロングランで上演をする予定。

## ワンコインでロングラン公演

ロングランで思い出すのが、2007年から続いている「ワンコインシアター」。「ワンコインコンサート」というのはよく聞きますが、「～シアター」となると全国的にも数える程。演劇を地域に浸透させて活性化することを目指

して、良質な演劇を低料金で提供するために始めたシリーズで、HPには「本格的な演劇を気軽に楽しめるようにワンコインで！！毎月末の土曜・日曜に、公演しています！！」とある。私も何度か観劇しているのですが、安定したクオリティに「さすがアクターズ（当時！）」と思ったものです。しかし、「500円で上演するべきでない。このクオリティならもっと高い料金をとるべき！」と言われたこともあるそうです。現在では公演の情報を発信すると、新幹線や車で来るような遠方からのお客もいるという。うらやましい話であるが、郷田氏は「まずは地域の方々を知っていただくことが大事。歩いてきてくれる方にもっと来て欲しい。そのためのロングランでもある。」と語る。「アトリエ公演としてやっているが、将来的には本格的な劇場を建て、今は月に1回だけ、関西のコメディのように毎日公演したい。もはや中央に集中していく時代ではないし、平塚をそういう街にしたい。そして役者が生活できる環境をつくりたい。」

このロングラン公演は5月まで続くとのこと。演博も同じ演目での出演ですが、ショートバージョンで上演するそうです。演博を観てから平塚へ行くもよし。予習してから演博に臨むもよし。気軽に足を運んでみてはいかがでしょうか？



公演情報：飯島早苗・鈴木裕美作「ソープオペラ」  
会場：アトリエ湘南  
日程：2012年2月25日(土) 19:00 / 2月26日(日) 15:00  
前売：2000円/当日：2300円  
お問合せ：mail@shonan-act.com / 0463-23-2324  
HP：http://www.shonan-act.com/teatro/



先日KAATとの、4月公演打ち合わせに行ってきました。  
先ずは ここまでの経緯を…

昨年の4月から5月におこなわれた3週間にわたる「TAK IN KAAT」とはだいぶ様相が変わりました。これはトーンダウンということではなく、昨年はやはりKAATオープニング・柿落とし年度、お祭りの要素があったということです。

勿論私たち県演連にとってはこれからのKAATとの関係をも含め、初めてとも言える、県演連以外の演劇人を巻き込んだオーディションによる公演など、目一杯の3週間ではあったのですが…。

総勢で3000人の集客を呼び、作品的にもそれなりの評価をいただき、無事タスキもつなぐことができ、大成功のうちに幕を下ろすことができました。タスキがつなげたということは、次がはじまったということなのです。もともとKAATに期待していたのは柿公演よりは通常のKAATの企画が進むようになる今年からの我々との関係でした。

それは新しく出来たKAATのなかに、県演連の劇団が存在を示すようなポジションがあるのか…ということでした。

そんな経緯があつての、今年のKAAT公演です。概要が決まりました。

いろいろな問題がありましたが、KAAT側から提出されたのは、4月9日(月)から4月27(金)

の間の中・小スタジオでした。理事会でその間の公演を希望する劇団を募ったところ、「風雲かぼちやの馬車」と「劇団河童座」そして、劇団を超えたベテラン・中堅役者たちが集つての公演、の3団体が名乗りを挙げました。3者の協議の結果、超劇団公演は時間のないなか急ぐ必要もないとのことで、「風雲かぼちやの馬車」と「劇団河童座」がことしのKAATの責任劇団と決定され期間を4月9日から23日までとして、残りの期間を返上しました。

今年は提携公演であり、残念ながら予算はつきません。劇場費は減免、機材費は無料との条件で進みます。

まだ詳細は未定事項が多いのですが、9日から15日までが「河童座」を中心とした公演「藪の中」と「山月記」16日から22日までが「風雲かぼちやの馬車」を中心とした「奇跡のシーズン大洋ホエールズ伝一負け犬たちの1960」と決定し、準備にかかり始めました。

勿論この公演は、単独劇団の公演ということではなく、他劇団・公募などによって企画されるもので、毎年暮れに行われている青少年センターホールの、KAAT版と思つていただいて結構です。

今年、名乗りを上げた劇団が少なかったのはKAAT側からの提供決定が遅れたため、各劇団が、すでに劇場を押さえていたことと、正直 昨年のKAAT公演において、テクニカルな問題、政策的な問題など、ハードルが高いとの印象が残っていて、今年は様子を…の想いの劇団が多いかのように思われます。つまり、来年の公演《2013年》のためには、この2劇団の関わり方が大きな注目を浴びることとなりそうです。ちなみに来年は、当初の予定通りにゴールデンウィークを中心とした日程に戻るはずで

す。ふまえて、今年1月10日KAATとの 具体的な進め方の第1回目打ち合わせを持つこととなりました。

真野館長と制作担当の林さん、河童座横田と かぼちや土井・西田とでの話し合いでした。

大まかなタイムテーブルと、道筋だけの打ち合わせでしたが、そのなか本音でテクニカルの話を中心に話げできたことは、大きな収穫でした。我々の技量、制作面も含め何

が不安なのかを聞いてもらい、なるべく背伸びをしないで公演ができるようにしたい旨を伝えました。KAAT側も、とにかくそんなにハードルを高く感じないで、普通に使ってもらえるような印象を持ってもらいたい…とのことで、かなりの相談と知恵を貸してもらえ…との合意ができました。残念ながらテクニカルなスタッフとの話し合いはできませんでした。思惑通りにいくかどうかは、これ

からのこととなりますが、KAATも、県演連との関係を大切に思ってもらっているようなので、第1回目の打ち合わせは、前向きで楽しい雰囲気の中進みました。さらにもし空いているのならば、八階のアトリエも稽古場として開放してもらえるとのことでした。

日程・料金・キャスト・スタッフなど、公演そのものの詳細が決まっていますが、これからのチラシその他情報を、逐一流しますですのでよろしく応援をお願いします。

勿論、芝居のクオリティーも 頑張りますが 集客も判断材料になると思います。4月の2つの公演のスケジュール、ぜひ空けておいてください。

これからのKAATとの関わりは、県演連にとっても神奈川県劇団にとっては新しい空間、新しい可能性を意味することとなるはずで

す。次へのバトンをしっかりとつなげるためにも、成功をさせなくては…の想いで芝居創りを進めます。次への軌跡も報告しますので、忙しい公演活動のなか、どこかで気に留めておいてくれれば…。

当日には、またいろいろお手伝いなどお願いすることがあると思います。いろいろと 宜しく願います。





# 編集長が斬る!

編集長が神奈川県演劇連盟を取材する連載企画

菱倉あゆみの創作する脚本の評価は年々高まってきている。舞台を観たお客を楽しませて評価されることは劇団横綱チュチュの力だが、芝居を観た数多くの人は脚本が面白いと語っている。劇団内で脚本を書き下ろす座付き作家として、また役者として活動している彼女はどんな思いでいるのかを取材させていただきました。

## 第1回 劇団『横綱チュチュ』菱倉あゆみ

「一人ひとりが一生懸命に生きていく姿を書き続けていきたい」

### 台本を書くことになったきっかけ

—台本を書くことになったきっかけはありますか？

きっかけ……。昔、チュチュの活動をする前にアマチュア劇団に所属していて、その時に稽古用の台本と公演用の台本を一本書きました。

—どういった経緯ですか？

既製の台本で公演を行っていたときにラストシーンがどうしても気に入らなくて、私だったらこうするのに。そうか、だったら自分で書けばいいという結論になりました。チュチュで書くかなり前の話ですけど。

—かなり間があるのですか？

八年ぐらい書いていませんでした。チュチュはもともとお母さんの集まりで始まった劇団で、チュチュと名前が変わってから演劇博覧会に参加することが決まったのですが、「台本探すのは大変だろうな」と。だったら書いてみよう。

—それ以降は全作品、菱倉さんのオリジナルですか？

そうですね。前作で第八回公演になったのですが全部書かせていただいています。

### 劇団に書き下ろす

—劇団に書き下ろす苦勞はありますか？

苦勞……。劇団に対しての苦勞はあまり思い浮かばないのですが、時間が足りないことですかね(笑)。家に帰れば母親ですし、仕事場に行けば看護師で、しっかり寝たいので早く寝るようにしていますし(笑)。時間ください。

—作品のテーマなどはどうしているのですか？

役者の人数はある程度決まっているので、舞台設定から考えて冒頭から書き出しますが特にテーマとか決めずに書き出しています。登場人物がどういうことを話すのか、どんな風に動くのか、書いているうちに変化していきます。

—観劇していると一貫した思いが感じられますが。

そうかもしれません。一人ひとりが自分なりの価値観で生きている。そのぶつかり合いが事件や揉め事になっていきますが、一方が悪いということではないと思っています。

いろいろな人間の考え方がある。その人間模様が舞台になる作品を書こうと思っています。

### 生きていく姿を書き続ける

—横綱チュチュも個性のある集団ですよね？

ふふふ。そうですね。でも、チュチュは人に本当に恵まれています。演出や照明、全てのスタッフに恵まれているなって思っています。今、チュチュがないと、私は困ります。

—“困る”は面白い表現ですね。

そうですね。でも、困ります。

—今後、書きたい作品はありますか。

—一幕ものを書いてみたい。……でも、難しいかな？

—今、いろいろな言葉を飲み込みましたね。

いやいや。そんなことないですよ。ふふふ。

—最後に一言いただけますか？

これからも、今までのように一人ひとりが一生懸命生きていく姿を書き続けていきたいです。

菱倉あゆみは女優。これが取材し終わった時に感じた印象でした。オリジナル作品を発表していく作家の想いもあるが、舞台でいい芝居をしたいという想いの方が何倍も強く感じた。作家兼役者ではなく。役者兼作家。彼女はこれからも役者として舞台に立ち、演技をしていく。今後も横綱チュチュ、そして菱倉あゆみに注目していきます。

DRAMAかながわ編集長 緑慎一郎



プロフィール

菱倉あゆみ

劇団『横綱チュチュ』女優・脚本家。  
1965年2月7日生。B型の両親から生まれた生粋のB型。職業女優・趣味看護師・時々脚本家のかたわら、ナンチャット主婦と親父のような母親業を営業中。



# 演劇資料室

資料室は2005年7月開設から6年半が経過してようやく固定客(利用者)が定着してきたとの実感があります。中高生は神奈川県中学校文化連盟演劇部会/神奈川県高校演劇連盟の先生がたが発表会やワークショップなど機会あるごとに「演劇資料室に行けばいい脚本が見つかる」と宣伝していただいたこともあって着実に存在が伝わっています。演劇部では先輩が後輩に申し送りするので新入部員が「先輩に聞いた」といいながらやってきます。

利用者は全県にまたがっていて、中学/高校演劇の場合、横浜市内のよりも県央地区の利用者が多くいます。夏休みのある日、山梨県北杜市の演劇部顧問の教師の引率で中学生10数人が資料室の開く9時を待って大挙来室。夕方まで喧々ごうごう脚本検討して上演脚本が決まり引き上げてゆきました。9時に来室するにはかなり早朝出発してきたものと考えられます。

北杜市で脚本を探すのは困難なため遠路はるばる探しに資料室を訪ねることになったようです。「いい脚本が見つかりました」とにこにこして帰って行ったのが印象的で、この仕事をやってよかったと思える瞬間です。

困った問題もあります。貸出図書の返却期限切れは常時注意していて遅れた場合電話で督促、数回督促しても返却されないときはハガキで督促。ほとんどの貸出図書はこの手続きで返却されますが、何度やっても返却されないケースがあります。多分に詐取しようという意図が感じられる

ことが残念ながらあります。資料室の蔵書に「ホール計画と運営」山崎康孝著(鹿島出版会刊)という本があります。通常貸出請求のほとんどないものですが資料室の骨格をきめる、演劇資料室たらしめる基本的な図書です。この本を貸出しました。大幅に期日を過ぎて返却されないので1年半にわたり督促をつづけても返却されません。利用者は劇場史専攻の大学院生ですが劇場史の研究のまえに「借りた本は返す」倫理の学習が必要のようです。

資料室は開架式で利用者が自由に本をさがすことができ利用者に使いやすい方式だと自負しているのですが欠点もあります。2010年月に死去した井上ひさしの戯曲集は利用度のたかい本ですがこのなかに「井上ひさし全芝居」全七巻を所蔵していましたがこのうち第4巻と5巻の2冊がなくなっていることに気づきました。貸出をした記録がなく持ち去られたものと考えられます。他の公共図書館でも図書の紛失は常に頭の痛い問題で閲覧室へのかばん類の持込を禁止している図書館もあります。それにしてもかなり分厚い本2冊をどのように持ち出したものか。さいわいこの本は現在刊行中なので補充できますが、万引にたいする対応は頭の痛い問題です。なにより演劇をやるひとが「本どろぼう」するなど考えたくないことです。

演劇資料室 荒井

## 神奈川県立青少年センター・演劇資料室を御利用下さい

演劇資料室では、外国や日本の戯曲をはじめ演劇雑誌等多くの演劇図書を取り揃えており、戯曲などの無料貸出もしています。御利用は一回3冊まで2週間借りられます。また神奈川県内のアマチュア劇団の活動記録等もごございますので大いに御活用下さい。皆さまのお越しをお待ちしております。

神奈川県立青少年センター 2階 演劇資料室 〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-1 ☎045-263-4400 (代) 内線5301

## 編集後記

2012年最初の「ドラマかながわ」は、いかがでしたでしょうか？今回もいくつかの劇団に取材をしましたが、神奈川県内には、まだまだたくさんの劇団が活動しています。重厚感のある作品を得意とする劇団からテンポの良い作品を得意とする劇団、個性的なオリジナル作品が得意な劇団など様々です。選択肢がこんなにたくさんあるのですから観に行かないのはもったいないですね！これからの時期、ここに掲載されて

いる以外にもたくさんの公演があるはずですよ。チラシは演劇資料室にもありますし、ホームページがある劇団もたくさんあるので、まずは、ここに名前が載っている劇団の公演予定を調べてみてはいかがでしょう？この紙面を通じて、たくさんの良い作品に出会えるきっかけになれるように、今年も頑張っていきますので、どうぞよろしく願いいたします。

編集部：浅水真子

### 神奈川県演劇連盟加盟団体(50音順)

- 演劇プロデュース『螺旋階段』● 京浜協同劇団● 劇団蒼い群● 劇団河童座● 劇団かに座● 劇団川崎演劇塾
- 劇団こゆるぎ座● 劇団葡萄座● 劇団麦の会● 劇団やぶさか● 劇団横綱チュチュ● 劇団よこはま壱座● 風雲かぼちゃの馬車
- まりこ☆みゆーじあむ● 横須賀市民劇場プロジェクト● 横浜小劇場● ラゾーナ川崎プラザソル● G/9-Project

神奈川県演劇連盟HP：<http://kenenren.web.infoseek.co.jp/2003/> 演劇資料室HP：<http://kenenren.web.infoseek.co.jp/shiryoushitsu/>

DRAMAかながわ[第64号] 発行日:2012年1月1日 発行:神奈川県演劇連盟  
編集:緑慎一郎(演劇プロデュース『螺旋階段』)・浅水真子(劇団やぶさか)・海老名信吾(劇団よこはま壱座)・関口素実・山元洋一(外部協力)